川西市立総合医療センター麻酔科専門研修プログラム
（地域中核病院のモデルプログラム）

1. 専門医制度の理念と専門医の使命

① 麻酔科専門医制度の理念

麻酔科専門医制度は，周術期の患者の生体管理を中心としながら，救急医療や集中治療における生体管理，種々の疾病および手術を起因とする疼痛・緩和医療などの領域において，患者の命を守り，安全で快適な医療を提供できる麻酔科専門医を育成することで，国民の健康・福祉の増進に貢献する．

② 麻酔科専門医の使命

麻酔科学とは，人間が生存し続けるために必要な呼吸器・循環器等の諸条件を整え，生体の侵襲行為である手術が可能なように管理する生体管理医学である．麻酔科専門医は，国民が安心して手術を受けられるように，手術中の麻酔管理のみならず，術前・術中・術後の患者の全身状態を良好に維持・管理するために細心の注意を払って診療を行う，患者の安全の最後の砦となる全身管理のスペシャリストである．同時に，関連分野である集中治療や緩和医療，ペインクリニック，救急医療の分野でも，生体管理学の知識と患者の全身管理の技能を生かし，国民のニーズに応じた高度医療を安全に提供する役割を担う．

2. 専門研修プログラムの概要と特徴

本専門研修プログラムは，専攻医が整備指針に定められた麻酔科研修の到達目標を達成できる専攻医教育を提供する．兵庫県の地域医療、麻酔診療に貢献しながら基本的な知識・技術・態度を身につけ，基礎となる臨床能力を十分に備えた麻酔科専門医を育成する． 連携施設では集中治療や小児麻酔，心臓血管麻酔等のそれぞれの分野を学び，総合的な能力を取得しつつ，自ら得意とする専門分野をもつ医師の育成を目指す．

3. 専門研修プログラムの運営方針

- 研修の前半2年間は，専門研修基幹施設または大学病院で研修を行い基本的な能力を身につける．
- 3年目以降は連携施設または大学病院において研修を行い，小児麻酔，心臓血管外科麻酔，ペインクリニックや集中治療，無痛分娩，緩和医療を含む様々な症例を経験する．
- 地域医療の維持のため，3年目以降も基幹施設又は兵庫県内の連携施設にて研修を行う場合がある。
- 専攻医のニーズに応じてこども病院やがんセンターをローテーションする場合もある．
- 研修内容・進行状況に配慮して，プログラムに所属する全ての専攻医が経験目標に必要な特殊麻酔症例数を達成できるよう連携病院と協力してローテーションを構築する．

研修実施計画例

年間ローテーション表の例

	1年目	2年目	3年目	4年目
A	川西市立総合医療センター	関西ろうさい病院	大阪大学医学部附属病院	大阪大学医学部附属病院

B	大阪大学医学部附属病院	大阪大学医学部附属病院	川西市立総合医療センター	川西市立総合医療センター
C	川西市立総合医療センター	大阪大学医学部附属病院	大阪大学医学部附属病院	関西ろうさい病院
D	大阪大学医学部附属病院	大阪大学医学部附属病院	川西市立総合医療センター	急性期総合医療センター

週間予定表
川西市立総合医療センターの例

	月	火	水	木	金	土	日
午前	手術室	手術室	手術室	手術室	手術室	休み	休み
午後	手術室	手術室	手術室	手術室	手術室	休み	休み
当直				待機			

待機の翌日は夜間の勤務状況により翌日が休みになります
土曜日や日曜日に待機になることもあります

4. 研修施設の指導体制

川西市立総合医療センター

研修実施責任者：盤井多美子
専門研修指導医：盤井多美子（麻酔、産科麻酔）
小野まゆ（麻酔、ペインクリニック）
坂野英俊（麻酔）
小澤満喜子（麻酔、集中治療）
中田由梨子（麻酔）
神崎由莉（麻酔、ペインクリニック）
神崎亮（麻酔、ペインクリニック）
山田万代（麻酔）
専門医　　：谷佐季（麻酔）
西村祐希（麻酔）
専門研修指導医　計８名

麻酔科認定病院番号：2009

特徴:当院は地域の急性期医療を担う中核病院であり多くの救急患者を受け入れているため、整形外科の外傷、脊髄損傷、開頭手術などの緊急手術にかかわることができ、実戦的な経験をしっかり積むことができます。麻酔管理においては区域麻酔や伝達麻酔を積極的に用いてシームレスな疼痛管理を心がけており、一症例ごとに丁寧で患者に寄り添った周術期管理を行っています。
さらに、専門医によるペインクリニック外来では神経ブロックや漢方による治療、骨粗しょう症等の治療を行っており、院内の緩和ケアの窓口にもなっていて、周術期だけではなく慢性疼痛や緩和ケアなど幅広く学ぶことができます。
また兵庫県で数少ない麻酔科主導の無痛分娩を行っている施設でもあり、周産期医療へのかかわりも深く、産科麻酔の経験も豊富に積むことができます。

小さい子どものいる医師も多く、みんなで支えあい協力しながら楽しく働いています。とてもアットホームな雰囲気で、気軽に相談しながら成長できる働きやすい環境です。

■2025 年度症例数
麻酔科管理全症例数　【　3137　】
小児(6 歳未満)の麻酔　【　15　】
帝王切開術の麻酔　【　174　】
心臓血管手術の麻酔　【　0　】
胸部外科手術の麻酔　【　60　】
脳神経外科の麻酔　【　319　】

専門研修連携施設

大阪大学医学部附属病院

研修プログラム統括責任者：吉田　健史
専門研修指導医：
吉田　健史　(麻酔・集中治療)
松田　陽一　(麻酔・ペインクリニック)
高橋　亜矢子　(麻酔・ペインクリニック)
井浦　晃　(麻酔)
山本　俊介　(麻酔・心臓血管麻酔・区域麻酔)
田中　愛子　(麻酔・集中治療)
松本　悠　(麻酔・小児麻酔・神経麻酔)
妙中　浩紀　(麻酔・集中治療)
木西　悠紀　(麻酔・産科麻酔)
池村　彩華　(麻酔・集中治療)
播磨　恵　(麻酔・産科麻酔)
小山　有紀子　(麻酔・集中治療)
松本　充弘　(麻酔・集中治療)
山下　智範　(麻酔・集中治療)
榎谷　祐亮　(麻酔・集中治療)
橋本　明佳　(麻酔・集中治療)
岩田　博文　(麻酔・集中治療)
古出　萌　(麻酔・集中治療)
山村　愛　(麻酔・集中治療)
森岡　智之　(麻酔・集中治療)
弓場　智雄　(麻酔・心臓血管麻酔・小児麻酔・産科麻酔)
岡田　康佑　(麻酔・心臓麻酔)
仲井　祐貴　(麻酔・ペインクリニック)
氏本　大介　(麻酔・心臓血管麻酔・小児麻酔・産科麻酔)
堀池　博吏　(麻酔・ペインクリニック)
専門医：西尾　龍太郎　(麻酔)
堺　奈生美　(麻酔)
野田　純希　(麻酔)
星野　瑠音　(麻酔)
麻酔科認定病院番号：49

特徴：
・あらゆる診療科があり、基本的な手術から脳死移植を含む複雑な手術、ASA１～６の患者に至るまで幅広い症例の経験が可能である。
・２年間の在籍で経験必要症例の規定数の達成が可能である。
・最新の手術に対応した最先端の麻酔や無痛分娩を含む産科麻酔についても経験することが可能である。
・手術麻酔、集中治療、ペインクリニック等の麻酔に関連するあらゆる分野を経験することが可能である。

①2025 年度の麻酔科管理症例数　7565
②専門研修指導医の人数　　25
③貴院への専門研修指導医按分数　　1

2025年度実績

麻酔科管理全症例数	**7565例**
小児（６歳未満）の麻酔	**362例**
帝王切開の麻酔	**196例**
心臓血管手術の麻酔	**655例**
胸部外科手術の麻酔	**442例**
脳神経外科の麻酔	**230例**

<u>大阪急性期・総合医療センター</u>
研修プログラム統括責任者：平尾　収
専門研修指導医：平尾 収　（麻酔全般・集中治療・呼吸管理）
山下 健次　（麻酔全般・集中治療・循環管理）
平松 大典　（麻酔全般・集中治療）
東名 里恵　（麻酔全般・集中治療）
寺島 弘康　（麻酔全般・集中治療・循環管理・心臓麻酔）
丸山 直子　（麻酔全般・集中治療・循環管理）
※専門研修指導医 計 6 名
専門医：和田 沙江子　（麻酔全般）
安部 瑞穂　（麻酔全般）
勝田 泉　　（麻酔全般）
麻酔科学会認定病院番号： 70号
特徴：救命救急医療や循環器医療などの急性期医療と、がんや腎移植などの高度専門医療を行う合計35の診療科が連携し、良質な医療を提供している。集中治療のローテーション可能

①2025年度の麻酔科管理症例数　5505
②専門研修指導医の人数　　6
③貴院への専門研修指導医按分数　　1

2025年度実績

麻酔科管理全症例数	5505例
小児（６歳未満）の麻酔	82例
帝王切開の麻酔	215例

心臓血管手術の麻酔	359例
胸部外科手術の麻酔	186例
脳神経外科の麻酔	164例

関西労災病院

研修実施責任者：前田　晃彦
専門研修指導医：
前田 晃彦（麻酔、心臓血管麻酔、区域麻酔）
上山 博史（麻酔、産科麻酔）
田村 岳士（麻酔）
清中 さわみ（麻酔）
田中 みちる（麻酔）
稲垣 佳苗（麻酔）
専門医：
山内 千奈（麻酔）
中村 藍（麻酔）
河野 悠（麻酔）
加藤　裕美子（麻酔）
魚谷　美貴（麻酔）
安田　めぐみ（麻酔）
下川　茉理（麻酔）
劉　嘉叡（麻酔）
認定病院番号：327

専門研修指導医　6 名

特徴：阪神地区の急性期医療、がん診療の中核病院。２台の手術支援ロボットを有し消化器外科（食道、胃、大腸、肝臓、膵臓）、呼吸器外科、泌尿器科、産婦人 科でロボット支援手術を行うなど領域によっては教育機関と同等以上の医療を実践。また心臓血管外科、脳神経外科、末梢神経ブロック施行症例も豊富である。

2025年度実績

麻酔科管理全症例数	5304例
小児（６歳未満）の麻酔	14例
帝王切開の麻酔	69例
心臓血管手術の麻酔	179例
胸部外科手術の麻酔	201例
脳神経外科の麻酔	236 例

施設名：大阪国際がんセンター

研修実施責任者：久利通興（麻酔、周術期禁煙、周術期アナフィラキシー）

専門研修指導医：

大川恵（麻酔，集中治療）

飯田裕司（麻酔，集中治療）

朝倉芳美（麻酔）

日生下由紀（麻酔，集中治療）

古川佳穂（麻酔，集中治療）

駒田暢（麻酔，集中治療）

樋口美奈（麻酔，集中治療）

専門研修指導医計８名

専門医：橋口桜子

認定病院番号：187

特徴：集中治療室のローテーションによる集中治療専門医資格の取得が可能

■本プログラム　専門研修指導医按分数　　１　人

■2025 年度症例数

麻酔科管理全症例数　【　4176　】

小児(6 歳未満)の麻酔　【　　0　　】

帝王切開術の麻酔　　【　　0　　】

心臓血管手術の麻酔　【　　0　　】

胸部外科手術の麻酔　【　507　】

脳神経外科の麻酔　　【　46　　】

大阪警察病院

研修実施責任者：北　貴志

専門研修指導医：北　貴志（麻酔）

井上潤一（麻酔，ペイン）

一澤真珠（麻酔、ペイン)

河合恵子（麻酔,集中治療）

寺西理恵（麻酔）

上田篤史（麻酔）

竹田峰子（麻酔）

小山英彦（麻酔、集中治療）

柴田晶カール（麻酔）

池田真悠実（麻酔，ペイン）

※専門研修指導医　計　　10　　名
専門医：
李太訓　（麻酔）
久保飛鳥（麻酔）
孫寅硯　（麻酔）
竹山恵梨子（麻酔）

麻酔科認定病院番号：295
特徴：症例数の多い急性期病院であり小児外科を除くほとんどの科の症例が研修できる。
■本プログラム　専門研修指導医按分数　　１人
■麻酔科管理全症例数（2025年度）　　6833　　例

施設名：市立豊中病院
病院　市立豊中病院
研修実施責任者：高田幸治(麻酔集中治療)
専門研修指導医：
二宮万理江(麻酔集中治療)
滝本佳予(麻酔集中治療)
八木拓也(麻酔集中治療)
専門医：
奥野勇輔(麻酔集中治療)

按分数　　0.5
麻酔科学会認定病院番号：352
特徴：
・全ての診療科があり、基本的な手術から複雑な手術、ASA1～5 の患者に至るまで幅広い症例の経験が可能である。また、緊急手術も多く経験できる。
・2 年間の在籍で心臓外科手術を除く特殊症例の症例数の達成が可能である。
・集中治療と緩和ケアの研修を行うこともできる。
大阪母子医療センター

症例数
小児（6歳未満）の麻酔　2122例
帝王切開術の麻酔　　421例

心臓血管手術の麻酔　　331例
胸部外科手術の麻酔　　13例
脳神経外科手術の麻酔　62例

研修実施責任者：　　竹下　淳（小児・産科麻酔）
専門研修指導医：　　竹下　淳（小児・産科麻酔）
川村　篤（小児集中治療）
濱場　啓史（小児・産科麻酔）
増茂　薫（小児・産科麻酔）
阪上　愛（小児・産科麻酔）
西垣　厚（小児集中治療）
専門医：
征矢　尚美　　（小児・産科麻酔）
栗畑 綾香　　（小児・産科麻酔）
佐伯 淳人　　（小児・産科麻酔）
井川 大輝　　（小児・産科麻酔）

第260号
特徴：小児麻酔と産科麻酔に関連するあらゆる疾患を対象とし、専門性の高い麻酔管理を安全に行っている。代表的な疾患として、胆道閉鎖症、胃食道逆流症、横隔膜ヘルニア、消化管閉鎖症、固形腫瘍（小児外科)、先天性水頭症、もやもや病、狭頭症、脳腫瘍、脊髄髄膜瘤（脳神経外科)、複雑心奇形（心臓血管外科・小児循環器科)、口唇口蓋裂（口腔外科)、小耳症、母斑、多合指(趾)症（形成外科)、分娩麻痺、骨欠損、多合指(趾)症、膀胱尿管逆流症、尿道下裂、総排泄腔遺残症（泌尿器科)、斜視、未熟児網膜症（眼科)、中耳炎、気道狭窄、扁桃炎（耳鼻科)、白血病、悪性腫瘍（血液・腫瘍科)、帝王切開、無痛分娩、双胎間輸血症候群（産科）などがある。さらに、小児では消化管内視鏡検査や血管透視、MRIなどの検査の麻酔・鎮静も、麻酔科医が行っている。

<u>大阪ろうさい病院</u>
研修実施責任者：　松浦　康司
専門研修指導医：
山下　淳（麻酔全般・心臓麻酔）
貴志　暢之（麻酔全般・心臓麻酔・ペインクリニック）
横川　直美（麻酔全般・ペインクリニック）
内本　明宏（麻酔全般・心臓麻酔）

桂　ナリ（麻酔全般）
宮田　嘉久（麻酔全般）
　※専門研修指導医　計__7名

専門医：　松浦　康司
山下　淳（麻酔全般・心臓麻酔）
貴志　暢之（麻酔全般・心臓麻酔・ペインクリニック）
横川　直美（麻酔全般・ペインクリニック）
内本　明宏（麻酔全般・心臓麻酔）
桂　ナリ（麻酔全般）
宮田　嘉久（麻酔全般）

麻酔科認定病院番号：__179____
特徴：病床647であり、小児症例は近隣の母子医療センターに結弦が、その他はすべての症例が経験できる。麻酔方法も近年環境に留意し徐々に静脈麻酔の比率が増えている。今年は　Asis TIVAも導入予定にしている

■本プログラム　専門研修指導医按分数　__1.5人
■2025年度症例数
麻酔科管理全症例数　【　5327　】
小児(6歳未満)の麻酔　【　5　】
帝王切開術の麻酔　【　8　】
心臓血管手術の麻酔　【　222　】
胸部外科手術の麻酔　【　74　】
脳神経外科の麻酔　【　64　】

西宮市立中央病院
研修実施責任者：前田倫
専門研修指導医：前田倫（臨床麻酔　ペインクリニック）
松村陽子（臨床麻酔　ペインクリニック）
菅島裕美（臨床麻酔）
麻酔科学会認定病院番号：571
特徴：日本麻酔科学会、日本ペインクリニック学会、日本緩和医療学会、日本頭痛学会の認定研修施設

5. 専攻医の採用と問い合わせ先

① 採用方法

専攻医に応募する者は，日本専門医機構に定められた方法により，期限までに志望の研修プログラムに応募する．

② 問い合わせ先

本研修プログラムへの問い合わせは，川西市立総合医療センター麻酔科専門研修プログラムwebsite，電話，e-mail，郵送のいずれの方法でも可能である．

川西市立総合医療センター麻酔科　主任部長　盤井多美子
兵庫県川西市火打1丁目4番1号
TEL 0570-01-8199
Email　iwais@tcct.zaq.ne.jp
Website https://www.kawanishi-hospital.jp/

6. 麻酔科医資格取得のために研修中に修めるべき知識・技能・態度について

① 専門研修で得られる成果（アウトカム）

麻酔科領域の専門医を目指す専攻医は，4年間の専門研修を修了することで，安全で質の高い周術期医療およびその関連分野の診療を実践し，国民の健康と福祉の増進に寄与することができるようになる．具体的には，専攻医は専門研修を通じて下記の4つの資質を修得した医師となる．

１）十分な麻酔科領域，および麻酔科関連領域の専門知識と技能
２）刻々と変わる臨床現場における，適切な臨床的判断能力，問題解決能力
３）医の倫理に配慮し，診療を行う上での適切な態度，習慣
４）常に進歩する医療・医学に則して，生涯を通じて研鑽を継続する向上心

② 麻酔科専門研修の到達目標

国民に安全な周術期医療を提供できる能力を十分に備えるために，研修期間中に専門知識，専門技能，学問的姿勢，医師としての倫理性と社会性に関する到達目標を達成する．

③ 麻酔科専門研修の経験目標

研修期間中に専門医としての十分な知識，技能，態度を備えるために，経験すべき疾患・病態，経験すべき診療・検査，経験すべき麻酔症例，学術活動の経験目標を達成する．

このうちの経験症例に関して，原則として研修プログラム外の施設での経験症例は算定できないが，地域医療の維持など特別の目的がある場合に限り，研修プログラム管理委員会が認めた認定病院において卒後臨床研修期間に経験した症例のうち，専門研修指導医が指導した症例に限っては，専門研修の経験症例数として数えることができる．

7. 専門研修方法

１）臨床現場での学習，２）臨床現場を離れた学習，３）自己学習により，専門医としてふさわしい水準の知識，技能，態度を修得する．

8. 専門研修中の年次毎の知識・技能・態度の修練プロセス

専攻医は研修カリキュラムに沿って，下記のように専門研修の年次毎の知識・技能・態度の到達目標を達成する．

専門研修１年目

手術麻酔に必要な基本的な手技と専門知識を修得し，ASA１～２度の患者の通常の定時手術に対して，指導医の指導の元，安全に周術期管理を行うことができる．

専門研修２年目

１年目で修得した技能，知識をさらに発展させ，全身状態の悪いASA３度の患者の周術期管理やASA１～２度の緊急手術の周術期管理を，指導医の指導のもと，安全に行うことができる．

専門研修３年目

心臓外科手術，胸部外科手術，脳神経外科手術，帝王切開手術，小児手術などを経験し，さまざまな特殊症例の周術期管理を指導医のもと，安全に行うことができる．また，ペインクリニック，集中治療，救急医療など関連領域の臨床に携わり，知識・技能を修得する．

専門研修４年目

３年目の経験をさらに発展させ，さまざまな症例の周術期管理を安全に行うことができる．基本的にトラブルのない症例は一人で周術期管理ができるが，難易度の高い症例，緊急時などは適切に上級医をコールして，患者の安全を守ることができる．

9. 専門研修の評価（自己評価と他者評価）

① 形成的評価

- 研修実績記録 : 専攻医は毎研修年次末に，**専攻医研修実績記録フォーマット**を用いて自らの研修実績を記録する. 研修実績記録は各施設の専門研修指導医に渡される.
- 専門研修指導医による評価とフィードバック : 研修実績記録に基づき，専門研修指導医は各専攻医の年次ごとの知識・技能・適切な態度の修得状況を形成的評価し，**研修実績および到達度評価表**，**指導記録フォーマット**によるフィードバックを行う. 研修プログラム管理委員会は，各施設における全専攻医の評価を年次ごとに集計し，専攻医の次年次以降の研修内容に反映させる.

② 総括的評価

研修プログラム管理委員会において，専門研修４年次の最終月に，**専攻医研修実績フォーマット**，**研修実績および到達度評価表**，**指導記録フォーマット**をもとに，研修カリキュラムに示されている評価項目と評価基準に基づいて，各専攻医が専門医にふさわしい①専門知識，②専門技能，③医師として備えるべき学問的姿勢，倫理性，社会性，適性等を修得したかを総合的に評価し，専門研修プログラムを修了するのに相応しい水準に達しているかを判定する.

10. 専門研修プログラムの修了要件

各専攻医が研修カリキュラムに定めた到達目標，経験すべき症例数を達成し，知識，技能，態度が専門医にふさわしい水準にあるかどうかが修了要件である. 各施設の研修実施責任者が集まる研修プログラム管理委員会において，研修期間中に行われた形成的評価，総括的評価を元に修了判定が行われる.

11. 専攻医による専門研修指導医および研修プログラムに対する評価

専攻医は，毎年次末に専門研修指導医および研修プログラムに対する評価を行い，研修プログラム管理委員会に提出する. 評価を行ったことで，専攻医が不利益を被らないように，研修プログラム統括責任者は，専攻医個人を特定できないような配慮を行う義務がある.

研修プログラム統括管理者は，この評価に基づいて，すべての所属する専攻医に対する適切な研修を担保するために，自律的に研修プログラムの改善を行う義務を有する.

12. 専門研修の休止・中断，研修プログラムの移動

① 専門研修の休止

- 専攻医本人の申し出に基づき，研修プログラム管理委員会が判断を行う.
- 出産あるいは疾病などに伴う６ヶ月以内の休止は 1 回までは研修期間に含まれる.

- 妊娠・出産・育児・介護・長期療養・留学・大学院進学など正当な理由がある場合は，連続して 2 年迄休止を認めることとする．休止期間は研修期間に含まれない．研修プログラムの休止回数に制限はなく，休止期間が連続して 2 年を越えていなければ，それまでの研修期間はすべて認められ，通算して 4 年の研修期間を満たせばプログラムを修了したものとみなす．
- 2 年を越えて研修プログラムを休止した場合は，それまでの研修期間は認められない．ただし，地域枠コースを卒業し医師免許を取得した者については，卒後に課せられた義務を果たすために特例扱いとし 2 年以上の休止を認める．

② 専門研修の中断

- 専攻医が専門研修を中断する場合は，研修プログラム管理委員会を通じて日本専門医機構の麻酔科領域研修委員会へ通知をする．
- 専門研修の中断については，専攻医が臨床研修を継続することが困難であると判断した場合，研修プログラム管理委員会から専攻医に対し専門研修の中断を勧告できる．

③ 研修プログラムの移動

- 専攻医は，やむを得ない場合，研修期間中に研修プログラムを移動することができる．その際は移動元，移動先双方の研修プログラム管理委員会を通じて，日本専門医機構の麻酔科領域研修委員会の承認を得る必要がある．麻酔科領域研修委員会は移動をしても当該専攻医が到達目標の達成が見込まれる場合にのみ移動を認める．

13. 地域医療への対応

本研修プログラムの連携施設には，地域医療の中核病院としての関西ろうさい病院，西宮市立中央病院など幅広い連携施設が入っている．医療資源の少ない地域においても安全な手術の施行に際し，適切な知識と技量に裏付けられた麻酔診療の実施は必要不可欠であるため，専攻医は，大病院だけでなく，地域での中小規模の研修連携施設においても一定の期間は麻酔研修を行い，当該地域における麻酔診療のニーズを理解する．

14.専攻医の就業環境の整備機能(労務管理)

研修期間中に常勤として在籍する研修施設の就業規則に基づき就業することとなります．専攻医の就業環境に関して，各研修施設は労働基準法や医療法を順守することを原則とします．プログラム統括責任者および各施設の研修責任者は専攻医の適切な労働環境(設備，労

働時間，当直回数，勤務条件，給与なども含む）の整備に努めるとともに、心身の健康維持に配慮します．

年次評価を行う際，専攻医および専門研修指導医は研修施設に対する評価（Evaluation）も行い，その内容を専門研修プログラム管理委員会に報告する． 就業環境に改善が必要であると判断した場合には、当該施設の施設長、研修責任者に文書で通達・指導します